

山口大学図書館報

Yamaguchi University
Library Bulletin

LIBRARY
NEWS

ISSN 0388-5569

Oct 2007
No. 75

目次

学術資産継承事業の取り組みとその課題・・・1	インターンシップの受入・・・・・・・・・・・・・9
北京師範大学を訪問して・・・・・・・・・・・・・4	研修会報告会の開催・・・・・・・・・・・・・9
常設展「平川史跡の散歩道」・・・・・・・・・・・・・6	学術基盤資料の有効活用に向けて・・・・・・・・・・10
七夕祭展示「絵本のいろいろ」・・・・・・・・・・・・・7	本学関係教員著作物寄贈図書・・・・・・・・・・・・・12
図書館研修会の開催・・・・・・・・・・・・・8	

学術資産継承事業の取り組みとその課題

学術資産継承事業プロジェクト活動委員会委員（人文学部准教授）尾崎 千佳

1. 活動の概要

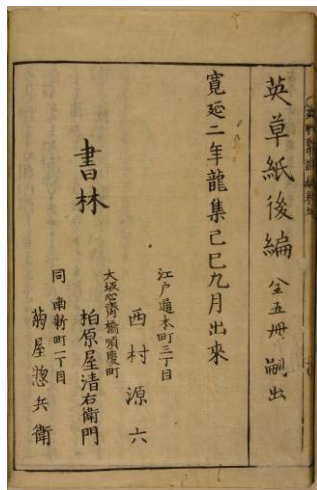
山口大学所蔵学術継承事業は、平成18年4月、本学が所蔵する学術資産の遺漏なき継承を目指して開始され、各部局所蔵学術資産の網羅的調査、保存の現状報告や将来方針の議論等を経て、同10月、「山口大学所蔵学術資産リスト」を含む『山口大学所蔵学術資産継承事業報告書』を発行した。山口大学が所蔵する相当数の博物・美術・文字・活字資料について、その所在や状態がはじめて総合的に把握されたことには、当事業の初歩として、一定の意義を認めてよいであろう。またこれと併行して、平成18年度学長裁量経費（戦略的経費）の配分を受け、図書館棲息堂文庫『万国総図』『英草紙』『扶桑隠逸伝』『読書続録』『読杜詩愚得』、および旧制山口高等学校旧蔵『源氏物語』古写本につき、綴糸や虫損等の補修処理を行い、カラーマイクロフィルムによる

撮影を経て、電子化の作業も進められてもいる。以下、修復を終えたふたつの資料について紹介しながら、学術資産継承事業の意義とその課題について、若干の私見を述べる。話題が筆者の専攻する国文学に集中することをお許し戴きたい。

2. 『英草紙』初刷本の価値と補修

『英草紙（はなぶさぞうし）』は、大阪の作家都賀庭鐘（つが・ていしょう）の執筆にかかり、近世後期小説の1ジャンル読本（よみほん）の初作に位置する作品である。中国の白話（はくわ＝口語体で書かれた小説）に筋を抛りながら、話の舞台や登場人物その他の設定をすべて日本に移し替えて描かれる翻案（ほんあん）小説で、寛延二年（1749）以降、幕末に至るまで数度の後刷りを重ね、長らく読者の支持を得た。読本の祖としての文学史的評価から、研究者の間では、その初刷（しょざり）本の

存在はかねてより探索の的であったが、近年、島根大学田中則雄氏の調査によって、棲息堂文庫本こそが初刷最善本であると判明した（『英草紙』の初刷本をめぐって『読本研究新集』5/2004年10月）。卷末奥付の右に、「英草紙後編 全五冊 嗣出」と、後編続刊を示唆する広告のあることが、初刷本の特徴であるという（【図版1】）。



【図版1】『英草紙』卷五卷末奥付（修復後）

初刷本は、新調の版木で最初に刷り上げた本であることから、その版面はシャープで美しく、また少数しか印刷されないため、稀少価値も高い。田中氏は、棲息堂文庫本を「初刷独特の楷正さが認められ且つ保存状態も良好」と評価されているが、それでも、版心（はんしん＝袋綴じ冊子の折目部分）を中心にまま虫損を存し、表紙の題簽（だいせん＝書名等を印刷して書物の表紙に貼付する紙片）剥落などの劣化が認められた。このたび行った、虫損を含む丁（ちょう＝ページ）に別の紙を挿入して綴じなおす間紙修理や、剥落題簽をもとの位置に貼りなおすなどの補修は、本書の持つ初刷特有のおもむきを、将来にわたってさらに長く持続させるための措置である。

3. 『源氏物語』古写本の形態とその保存

『源氏物語』は、昭和6年2月、弘津徹也氏が旧制山口高等学校に寄贈したもので、管見の限り、これまでその存在の報じられたことのない資料である。「空蟬」から「夢浮橋」に至る43帖が現存するが、少なくとも3人の書写者の筆蹟にかかり、さらに墨や朱で他本との校合（きょうごう＝複数の本文を比較すること）結果が細かく書き込まれている。校合は、校合奥書によれば、天正十七年（1589）、同二十年（1592）、慶長十一年（1606）、寛永二十年（1643）の少なくとも4度にわたって行われたものらしい。実に50年余を隔てた作業であり、もと然るべき家の伝来品であったことをうかがわせる。本文は、天正十七年をさほど遡らない室町後期の書写と推定される。

書物としての体裁は、すべての帖が同一で、柘形（ますがた）本と呼ばれるほぼ正方形の書型をとり、題簽は表紙の中央に貼付されている（【図版2】）。これは、正統的典籍であることを示す、和書独特の象徴的スタイルである。装訂は、あらかじめ数枚を重ねあわせて二つ折りにした料紙をさらに数括束ねて糸で綴じる、綴葉装（てつちようそう）。綴葉装の料紙は表裏両面の書写に耐え得る良質紙であることが多いが、本『源氏物語』にも、木槌で叩いて光沢を出し墨付きをよくした厚手楮紙の打紙が用いられている。また、綴じ糸には朱染の麻糸が使われ、結び部分で装飾的に縊りあわせられている（【図版3】）。今なお鮮やかなその朱色が、往時を偲ばせよう。



【図版2】『源氏物語』「夕顔」表紙（修復前）



【図版3】『源氏物語』「夕顔」中央部（修復前）

今次の修復では、虫損や糸切れ等の部分的補修のほか、収納箱を新たにあつらえたことが特筆される。従来、43帖すべてを平積みして桐箱に保管していたが、料紙の折り目が右側に偏る綴葉装のため、本自体の重みで水平を保てず、湿気による打紙のあばれも関係してか、全体が反りかえって変形してしまっていたのである（【図版2】左上部参照）。そこで、各帖の折括のずれを適切な状態に修正したうえで、専用の4段重ね桐箱をあつらえ、およそ10帖ずつを分け納めることとした。原本の風合いを極力損ねないまま、本来の状態に戻すことを重視したわけである。

4. 保存と活用、その課題

古典籍の修復には、当然ながら、相当額の経費が必要である。昨今の厳しい財政状況のなか、学術資産継承事業のために経費配分をお認めくださった当局のご賢察に、まずは深甚の謝意を申しあげたい。ただし、文化資源の保存という事業が補修の一事で済む問題でないことは、改めて言うまでもないだろう。湿度管理・紙魚駆除・書庫内清掃・曝書といったごく日常的な取り組みは、今後も不断の努力によって行われなければならない。いかに整った最新式設備があろうと、またいかに補修資金を投入しようと、人が手間暇をかけることなしには、先人の遺産を未来に継承することなど、ぜったいに不可能である。

誤解のないよう注意を喚起すれば、原本補修やその後の管理努力はあくまで資料の保存を目的とし、電子化は資料の活用を目的とする。もちろん、通常の閲覧依頼を電子化資料で対応することによって原本保護に資することはあり得るが、電子化資料は原本そのものの代わりにはぜったいになり得ない。そして、いかなる稀少資料であろうと、またいかに傑出した作品であろうと、人が価値を認め、味読し、活用することなくしては、それらは瞬く間に単なる古紙の塊に変貌してしまうだろう。

やや抽象的な提言ながら、保存と活用のよき関係性の模索こそ、これからの学術資産継承事業にとって、最も本質的な課題であると考えます。保存にも活用にも、人の努力や人の叡知が不可欠であることを述べてきたが、保存や活用に人を向かわせる原動力は、よくぞ残ってくれたという素朴な感動であると、わたくしは信じて疑わない。

北京師範大学を訪問して

既に半年以上経過してしまいましたが、昨年度末に「人文科学における中国諸大学との共同研究の促進についての協議並びに大学の管理運営に関する調査」を命じられ、北京市内の3大学を訪問する機会をえました。

図書館に関連した訪問ではなかったのですが、館報に載せる話題としては不適切であるような気もしますが、中国の大学事情及び唯一見学時間の取れた北京師範大感想を述べてみたいと思います。

北京師範大学は1902年に設立された京師大学堂師が前身で、現在では24の学院(Colleges And Schools)、3つの学部(Departments)及び13の研究所(Institutes)で構成されており、学生数は17,000名(大学院生含む)、教員数1,400名を超え、社会人教育を積極的に行っており、一般学生とは別に29,000名の成人教育学生が在籍しています。

北京市内中心部に位置し、郊外にある北京大や清華大に比べるとずいぶんとこじんまりした印象を受けるのですが、それでも山口大のキャンパスの数倍はあり、早朝、図書館前広場で多くの市民が太極拳や剣舞を舞っている姿は、大学のキャンパスとは思えない不思議な感覚にとられました。

山口大学とは、丸本卓哉現学長の「土壌浸食防止と緑化に関する共同研究」を契機に交流が始まり、2004年2月には大学間交流協定を締結する関係にあります。

中国では、1980年代頃から、国策

として国際間の文化交流や留学生の受入・派遣を進めており、国際交流処(課)の支援組織を整え、外国語に堪能な職員の採用配置を行っているようでした。外国人留学生や研究者専用の大規模な宿泊施設が用意され、基本的な調度品・電化製品も備えられており、私達が宿泊した北京師範大学專家楼には、インターネットの環境も整備されており夕食後比較的時間が取れたことを思えば、ノートPCを持参しなかったことが悔やまれました。

中国の大学を視察し、今まで日本の大学しか見たことのない自分にとっては驚きの連続でしたし、とにかくその現近代化、規模の大きさ、歴史の深さに圧倒され続けました。



木の奥が北京師範大学図書館

最近、大学の将来構想等に、世界水準という言葉を見かけることが多いのですが、その言葉の持つ意味を改めて考えさせられました。

中国における国家重点大学は、大学の予算の3分の1は国から措置され、残り3分の1はプロジェクト研究などの競争

的資金を獲得、3分の1は出版等の自己収入となっています。大学の関与やその収入の取扱いについては詳細を聞くことはできませんでしたが、キャンパスを視察すると、構内の一画に北範大出版社の立派な建物があり、管理事務局のあるビルの2Fには大規模な歯科が営業していました。また、大通りに面する留学生会館の1階にはマクドナルドをはじめ、コンビニや料理店がフランチャイズで入っており、私たちが宿泊した专家楼はHotelの位置づけで宿泊料が徴収されていました。大学が行う事業に関しては、日本の国立大学法人より中国の国立大学の方に柔軟性があるように感じられ、自己収入をいかに稼ぐかの熱意が伝わりました。

図書館は1時間程度しか時間が取れなかったのが残念ですが、近代化の真っ最中という意気込みだけはビンビンと伝わってきました。訪問時は大学の情報流通の拠点に相応しい機能を有するために、

旧館を取り壊して新館を建設中でしたので、できあがった新しい図書館がどう大学の中で機能していくのか見てみたい気もしております。

機能面ではあまり日本との差を感じませんでしたが、人材育成が日本のように数年で配置換えをして何でもできるやり方に対して、10年単位でじっくりと専門性を発揮できる仕組みができあがっていることが少しうらやましくもありました。また職員数が多いことにも驚きましたが、日本が少なすぎるだけで世界的には標準値なのかもしれません。

今回の訪問が「国際交流」を主務としたものでしたので、少し違和感があったのですが、この訪問を通じてこれまであまり関心のなかった「国際化」に対して図書館としてどう対応すべきかを考えるきっかけを頂けたと思っております。

(学術情報課情報サービス係長 岡田 隆)



新図書館建設中

常設展「平川史跡の散歩道」

総合図書館には年に1～2回テーマを変えて展示を行う、常設展示コーナーがあります。毎回、山口県に関する歴史や人物を取り上げ、学生や地域の方々にもっと山口を知ってもらいたいという主旨で、パネルを中心に所蔵資料の紹介などを行っています。

今回は「平川史跡の散歩道」というテーマで、平川地区にある様々な歴史的建造物や石碑、保存樹などの写真を紹介しています。平川地区は、山口大学の吉田キャンパスを含む一帯を指すのですが、大変歴史の古い地域です。古くは弥生時代の土器や古墳が見つかっており、石器時代から集落が形成されていたと考えられています。そのため、歴史的建造物が至るところにあります。普段何気なく通り過ぎているお寺や、小さな道端の石碑にも古人の想いが刻まれているのです。それらを、所蔵資料と実際に足を運んで得た情報を基に、写真やパネルでわかりやすく紹介しています。

展示ケースでは、本図書館の貴重資料でもある、林家文書の中から榎野川改修工事に関する資料を数点公開しています。林家は江戸時代から維新廃藩までの約190年間にわたる、小郡仁保津の大庄屋で、10代目勇蔵のときに榎野川の改修工事が行われました。それまで度重なる洪水や氾濫に悩まされていた平川地区の人々にとっては、待ち望んだ改修工事だったことでしょう。その当時の設計図が、褪せることなく色鮮やかに残っています。

今回の展示は、山口大学附属中学校1年生の社会科授業でも取り上げられ、約

160名が見学に訪れました。



中学校1年生にとっては少し難しい内容だったかもしれませんが、パネルを見ながら「ここ行ったことあるよ!」と友達同士で教えあったり、貴重資料の読めない漢字に頭を悩ませたりと、とても熱心に見学していました。



七夕祭展示「絵本のいろいろ」

7月7日七夕祭に、総合図書館では医学部図書館の協力(オズボーンコレクションを借用)をえながら山口大学図書館全体が所蔵する絵本類を「絵本のいろいろ」と銘打って展示することにより、地域の方々に実際に手にとって閲覧出来る展示を企画し、絵本の世界を体験する時間を演出しました。当日、図書館は入館ゲートをオープンにし自由に誰でも許可なく入退出することとしました。地域の方々や教職員の家族連れ、いつも図書館を利用する学生はもちろんそれ以外の学生や友人等多くの人たちが入館し和気藹々に熱心に鑑賞していました。

また、メディア基盤センターと学生が企画したラジオ生放送が総合図書館ブラウジングルームであり、展示紹介の特別参加をしました。



絵本の解説とテディベア



大型絵本を見入る



「絵本のいろいろ」のラジオ出演

図書館研修会の開催

図書館では、次世代の図書館の在り方として、TA（ティーチングアシスタント）、SA（ステューデントアシスタント）、LA（ライブラリアシスタント）、並びに時間外開館従事者などにより図書館が果たすべき教育・研究支援業務の一部を協働で取り組むことができないか検討しています。

たとえば、参考資料の活用方法や文献の入手方法など、いくつかの分野においては、学生同士によるピアサポート体制が実現できるものと期待しています。この様に、学生との協働体制による課題解決方法について模索しており、総合図書館では、LAと呼ばれるボランティアスタッフの学生が、学生協働体制の一環として図書館業務を分担し、スタッフの一員として活動しています。

図書館では、彼等に図書館業務の理解をより深めてもらう目的で、学生の夏季休暇期間中を利用して、図書館研修会を開催いたしました。研修会の講師は図書館職員が担当し、研修内容は座学研修とセルフラーニングを主とした目録実習の2部構成で企画しました。

なお、この度の研修会には、本学の図書館職員や山口県図書館協会参加館にも呼びかけ、8月末時点で計7回の研修と実習に67名の受講者がありました。



インターンシップの受入

山口大学では、例年本学学生を対象としたインターンシップ事業を、学生の夏期休暇期間中に実施しており、情報環境部でも2名の定員枠を設定したプログラムを用意し、受入体制を確保しています。実施プログラムは、資料の発注・受入・整理から、カウンター・ILL・レファレンス等の図書館業務が中心であります。コンピュータの管理・運営や庶務的な業務をも組み込んだユニークな企画となっています。

今年で3回目となるインターンシップは、受入部署が予め示したプログラムを見て、学生を公募する形で行われているが、情報環境部を希望する学生は多く、受入側としては少しでも多くの知識を伝授し、就職活動の一助になればと思い取り組んでいます。

実習を終了した学生から、日頃利用者の立場から見た視点でしか考えなかったことが、実習を行ったことによりサービスを提供する立場に立って物事を見る目が養われ、今後の就職活動に大いに役に立ったと、概ね高評価を得ています。

情報環境部では、実習期間中、学生から提案のあった意見を参考にして日常業務に反映させるとともに、実施プログラムに順次改訂を加え次年度に向けた実習生の受入へと準備を行っています。

研修報告会の開催

情報環境部では、職員のスキルアップを図るため、学外において開催されている各種研修会や講習会に担当者を参加させ、専門知識や先端知識の習得に努めています。そのため、折角得たこれらの知識を部内の職員へ周知する手段として、平成18年度より研修報告会の開催に取り組んでいます。

研修報告会とは、研修会等に参加した職員が、帰庁の翌月研修会等で行われた内容を簡潔にまとめ、情報環境部の職員を対象に発表を行うもので、発表する職員は研修会等の内容の再認識とプレゼンテーション能力の向上が養われ、受講する職員は研修概要を知るとともに、同じ部内に所属する職員（係）がどのような業務に取り組んでいるのかを知る機会となります。

このほか、係や課が取り組んでいる課題を報告する等、部内の情報を幅広く伝達する場としても活用されており、時間が許せば大学情報機構長（図書館長）も出席され、発表者に質問をされる風景も見受けられました。

ただ、本学の図書館は山口市と宇部市の3キャンパスに分散されているため、全員が一同に介して参加することができないという課題も残されています。

学術基盤資料の有効活用に向けて

～ 3 6 0 S e a r c h ～

情報の流通経路は高度情報化に伴い、従来の紙媒体での提供から電子媒体へと変化しています。学術情報においても、オンラインジャーナルや文献検索データベースは研究・教育に必要不可欠となっています。本学図書館でも専門分野に応じた複数のデータベースを提供しており、最新の学術情報を入手することができます。

しかし、それらは各々に専門分野や収録誌が異なっており、目的に応じてデータベースを使い分けられる一方で、データベースによって検索方法が異なるため、全ての利用方法を覚えなければならないことや、有用な情報を入手できるまで、何度もデータベースを変えて検索し直さなければならないという煩雑さがあります。

それらの問題解消に向けて、今年度から ProQuest 社製のリンクリゾルバー、360Link（愛称：山大リンク）を導入し、データベースの検索結果からオンラインジャーナルをはじめとする、様々な情報資源へのリンクを実現しました。検索結果から文献へのアクセスは容易になりましたが、未だ、データベース間の問題は解決していません。

そこで、検索における煩雑さの解消と、提供する全ての学術基盤資料の有効活用を目的として、単一のインターフェイスでデータベースを一括検索できる統合検索システム、360Searchの導入を検討しています。360Searchを導入すると、一括検索機能により、文

献検索の時間を短縮することができる上、各データベース固有のインターフェイスを習熟する必要がありません。また、データベースの選択を意識しなくても適切なものを利用できます。これまで、特定のデータベースや雑誌しか利用していなかった研究者や学生にとって、一括検索により、新たな情報源発見の機会となると考えています。

Q & A

Q1) リンクリゾルバー(ArticleLinker)と360Linkとは違うところがありますか？

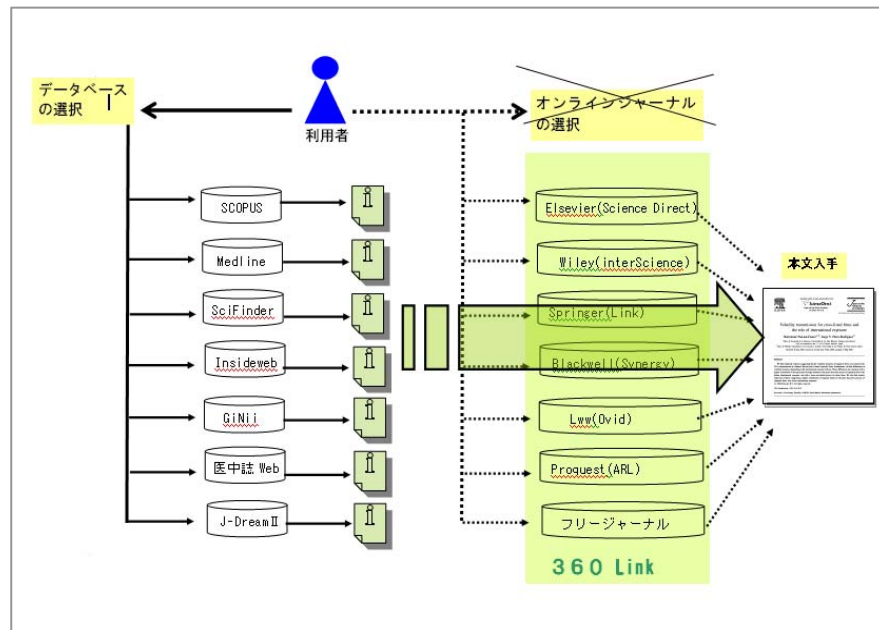
A1) 同じです。名称を販売元が新しく「360Link」と変更しただけです。

Q2) データベースで検索し、自館で利用できるオンラインジャーナルをリンクできることはわかりますが、それ以上にリンクするのはなぜですか？

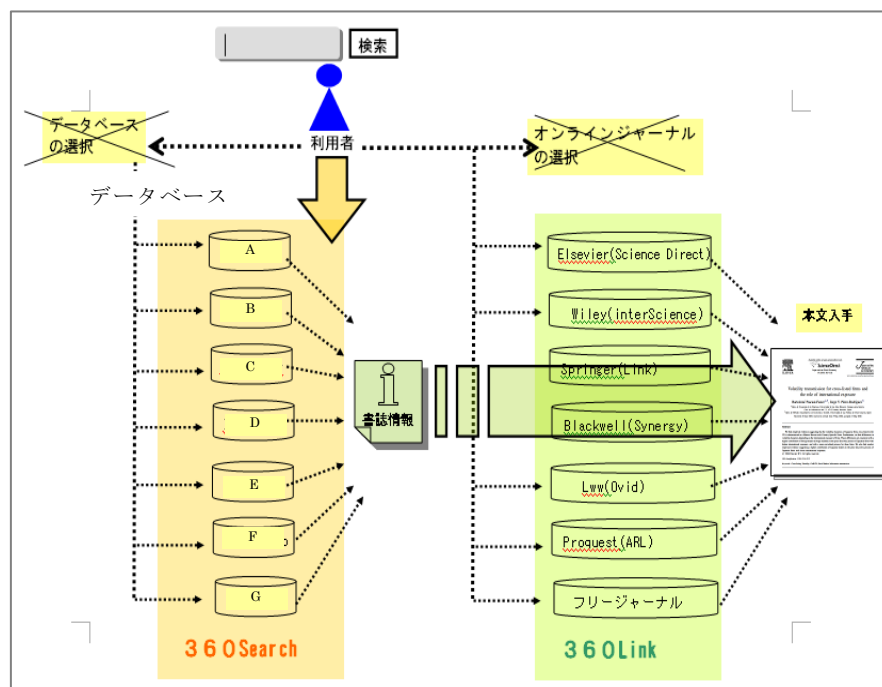
A2) 購入オンラインジャーナル全体は当然ヒットします。それ以上にオープンアクセス可能な無料オンラインジャーナル(機関リポジトリを含む)ともリンクしています。現在、購入オンラインジャーナル誌数は、山口大学では約1万3千誌ですが、このソフト(360Link)が多く無料の雑誌をリンクし横断検索可能としているため、購入と無料を併せて合計2万以上の対象誌がリンク出来る環境となっています。

【情報検索から本文入手の経路】

現在



これから



本学関係教員著作物寄贈図書 (寄贈年月日順)

寄贈者	所属学部等	書名 / 備考
白石 清	理学部	絶対わかる物理の基礎知識 : CONCEPT 80 / 講談社 (絶対わかる物理シリーズ).
澤 喜司郎	経済学部	交通とビジネス : 交通論おもしろゼミナール / 成山堂書店
朴 賢珠	人文学部	サランヘヨ!ハングル : 初級から中級へ : 韓国語テキスト / 白帝社
林 徳治	教育学部	必携!相互理解を深めるコミュニケーション実践学 / ぎょうせい
宮本 文穂	工学部	建設・環境マネジメント講演会論文集 / [第1回, 第2回](2004), 第3回(2005), 第4回(2006) / 山口大学工学部知能情報システム工学科
宮本 文穂	工学部	3rd Chosyu-London memorial symposium in lifetime engineering of civil infrastructure / 山口大学工学部知能情報システム工学科
宮本 文穂	工学部	社会基盤構造物の戦略的ライフタイムマネジメント : LCCを考慮した既存 RC 橋の維持管理支援システム(J-BMS) / [日本語版], [英語版], [中国語版]. -- [山口大学工学部] 3冊 (社会基盤マネジメントシリーズ ; No. 1)
宮本 文穂	工学部	橋梁維持管理データベースシステム(J-BMS DB)の開発 / [山口大学工学部](社会基盤マネジメントシリーズ ; No. 2).
山内 直樹	農学部	園芸作物保蔵論 : 収穫後生理と品質保全 / 建帛社
青島 均	理学部	香りの科学はどこまで解明されたか : アロマセラピー・森林浴・嗜好飲料 / フレグランスジャーナル社
額額 厚	人文学部	監視社会の未来 / 小学館

編集後記

・今号は尾崎千佳先生から学術資産承継事業とその課題というテーマで貴重な提

言をいただきました。

・次号は新入生特集号を企画しています。

山口大学図書館報「Library News」
No. 75 2007年10月31日発行
<http://www.lib.yamaguchi-u.ac.jp>

編集・発行 山口大学図書館
〒753-8516 山口市吉田 1677-1
TEL. 083(933)5183 FAX. 083(933)5186